

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第5号）」について送付しますので、業務の参考にして
ください。

令和8年産麦作情報（第5号）

1. 気象の概要

- ◆平均気温…3月1半旬は平年よりやや高く推移したが、3月2半旬～3半旬は平年より
やや低く推移した。（3月：平年比 -0.7℃）
- ◆降水量…3月1半旬～2半旬に定期的な降水があったため平年よりもやや多く推移した。
（3月：平年比 79%）
- ◆日照時間…3月1半旬は平年よりもやや低く推移したものの、3月2半旬以降はやや高
く推移した。（3月：平年比 118%）

2. 管内麦類の生育状況

場所	品種名	播種日	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)	推定出穂期
鍋島	シロガネコムギ	11/19 (11/24)	56.7 (35.7)	673 (654)	8.6 (7.7)	41.8 (41.0)	3月26日 (4月13日)
北川副	さちかおり	11/21 (11/24)	52.0 (44.5)	945 (1275)	10.3 (9.2)	43.1 (42.1)	4月2日 (4月16日)
川副	はるか二条	11/25 (12/10)	63.4 (28.9)	567 (838)	10.9 (6.8)	39.5 (41.5)	3月26日 (4月11日)

注 1) () 記載は昨年度の生育状況。圃場、播種日など条件が異なるため、あくまでも参考程度。

【概況】

- 小麦・大麦ともに、莖数は12月中旬以降に播種された圃場など一部を除き平年並み～やや多い傾向となっている。
- 2月3半旬以降、平年に比べ気温が高く推移したため、生育は平年に比べ7日程度（昨年比：-10日）早くなっている。
- 小麦・大麦ともに、適期に播種された圃場では、現在、止葉が抽出しており、間もなく出穂期を迎えると推測される。（写真5～6）。

◎農試作況試験における麦類の生育（3月19日調査）

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況 4) (平年・平均と比較して)
1) シロガネコムギ	11/20	本年	51.9	669	8.6	43.0	[気象] 3月2日～3月18日まで ◆平均気温…0.3℃高い ◆日照時間…長い(平年比118%) ◆降水量…やや少ない (平年比98%) [生育] ◆草丈 「シロガネコムギ」は両作期とも低い。 「サチホゴールド」は12/1播種でやや短く、12/10播種でやや長い。「はるか二条」は12/1播種でやや短く、12/10播種で短い。 ◆莖数 「シロガネコムギ」は11/20播種で平年並み、12/10播種で多い。「サチホゴールド」及び「はるか二条」は12/1播種で少なく、12/10播種で多い。 ◆葉齢 「シロガネコムギ」は11/20播種でやや少なく、12/1播種でやや多い。「サチホゴールド」は12/1播種でやや多く、12/10播種でやや少ない。「はるか二条」は12/1播種で平年並み、12/10播種でやや少ない。 ◆葉色 「シロガネコムギ」は11/20播種でやや淡く、12/1播種で淡い。「サチホゴールド」は12/1播種で平年並み、12/10播種で淡い。「はるか二条」は両作期とも濃い。 ◆生育ステージ 11/20播種「シロガネコムギ」、12/1播種「サチホゴールド」、「はるか二条」は止葉が抽出展開中である。 (詳細は次頁参照)。
		平年	59.4	676	9.1	43.7	
		平年差 (比)	87	99	-0.5	-0.7	
	12/10	本年	39.7	789	8.3	40.3	
		平年	50.1	681	8.0	47.4	
		平年差 (比)	79	116	+0.3	-7.1	
2) サチホゴールド	12/1	本年	54.3	925	9.8	39.5	
		5ヶ年平均	55.6	1082	9.6	39.6	
	12/10	平年	51.3	1017	8.9	41.4	
		平年比 (差)	98	85	+0.2	-0.1	
3) はるか二条	12/1	本年	53.4	871	9.5	46.2	
		5ヶ年平均	54.8	940	9.5	43.1	
		平年比 (差)	97	93	±0	+3.1	
	12/10	本年	51.8	923	9.0	46.1	
		平年	58.3	871	9.3	43.4	
		平年比 (差)	89	106	-0.3	+2.7	

留意点	<p>◆茎立ちは小麦が平年並み、大麦が平年よりやや早くなっており、出穂期も同様と予測される。</p> <p>◆赤かび病の防除について 小麦:開花始め～開花期(出穂期の約7～10日後)の防除は、発病抑制だけでなくDON低減効果が高い。さらに、開花10～20日後頃に2回目の防除を行うとDON低減効果が高まる。 大麦:蒴殻抽出期(出穂期の約2週間後)の防除は発病抑制だけでなくDON低減効果が高い。さらに、その7日後頃に2回目の防除を行うと効果が高まる。 本病の発生が多いパン用小麦及び食糧用大麦「はるか二条」については、2回防除を基本とする。</p> <p>◆大麦において網斑病がみられる場合は、出穂期～穂揃期に薬剤防除を行う。ただし、出穂前においても病斑が上位葉に進展している場合は、直ちに防除を実施する。</p> <p>◆麦類生産物については、適正なタンパク質含有率の確保が極めて重要であることから、穂揃期追肥を施用し適正化を図る。</p>
-----	--

◎本年の生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成始期 (月/日)	節間伸長開始期 (月/日)	茎立期 (月/日)	出穂期 (月/日)
シロガネコムギ	11/20	本年	1/27	2/18	2/21	未
		前年	2/3	3/1	3/5	4/7
		平年	1/30	2/18	2/22	3/30
	12/10	本年	2/23	3/4	3/6	未
		前年	3/5	3/17	3/19	4/11
		平年	2/21	3/1	3/4	4/5
サチホゴールデン	12/1	本年	2/4	2/25	2/27	未
		前年	2/13	3/12	3/14	4/8
		平年	2/8	2/27	3/5	3/31
	12/10	本年	2/9	2/28	3/3	未
		前年	2/18	3/13	3/16	4/11
		平年	2/11	3/3	3/7	4/3
はるか二条	12/1	本年	2/4	2/24	2/26	未
		前年	2/13	3/8	3/10	4/7
		平年	2/8	2/25	3/3	3/31
	12/10	本年	2/7	2/25	2/27	未
		前年	2/18	3/10	3/12	4/11
		平年	2/9	2/25	3/1	3/31

○表1. 出穂期推定プログラム

品種	はるか二条	品種	はる風ふわり
①基準年 (出穂予定の前年)	2025	①基準年 (出穂予定の前年)	2025
③播種日	2025/11/25	③播種日	2025/11/20
平年気温の偏差	0	平年気温の偏差	0

推定出穂日	3月26日	推定出穂日	3月27日
-------	-------	-------	-------

- この結果は出穂期推定プログラムにより、播種日と気温データで算出した出穂期の目安であり、実際の生育は、年ごとの気象や圃場条件によって前後することがある。
- 作業計画を立てる際の参考情報としてご利用ください。

3. 今後の管理

1) 施肥

○穂揃期追肥（実肥）

タンパク含有率向上のため、穂揃期追肥を施用する。特にパン用小麦は必ず施用する。

○表2. 穂揃期追肥の施肥基準目安

葉色	用途	品 種	窒素量 (kg/10a)	実肥の施用量 (kg/10a)	
				硫安の場合	尿素の場合
葉色に関わらず 必ず施用	パン	はる風ふわり	5	25	12.5
		さちかおり	7	30	15
葉色が薄い場合 に施用 注1)	めん	チクゴイズミ	3	15	7.5
		シロガネコムギ	2	10	5
	ビール	サチホゴールド	2	10	5

注1) 出穂期前頃の SPAD 値がシロガネコムギで 40 以下、ビール大麦で 39 以下の場合。

注2) 穂揃期追肥は、出穂期の 3 日後が効果的。それ以降に施用する場合は増量が必要。

〈液肥利用の留意点〉

- 肥料を溶かす際は、直接タンクに入れると溶けない場合があるため、事前にお湯等で溶かし、タンクに入れると濃度ムラがなくなる。
※硫安による液肥施用は難しいため、液肥利用の際は尿素を用いる。
- 乗用管理機での施用の場合、赤かび病防除との同時施用も可能。ただし施用時期が遅くなるため、3～4割追加した量が必要になる。
- 液肥施用後、芒や葉先などに肥料焼けがみられるが、収量や品質への影響は小さい。

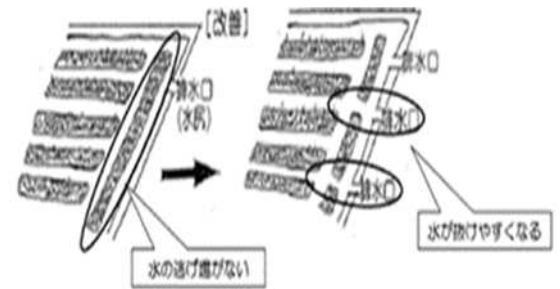
2) 排水対策

- 排水対策は、分けつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。

• 土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。

→特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合は、排水不良（うね溝の停滞水が増える）となりやすいので、うね溝と排水口をつなぐよう徹底する。

- 近年は温暖化の影響で出穂期前後から大雨が降ることが多い。水が溜まったら排水溝に逃がす作業を必ず実施する。



3) 病害虫防除

- 網斑病・赤かび病は予防が基本となる。本年の出穂期は、平年に比べ前進化すると予想されるため、時期を逸しないよう防除準備・対策を講じておく。

(1) オオムギ網斑病

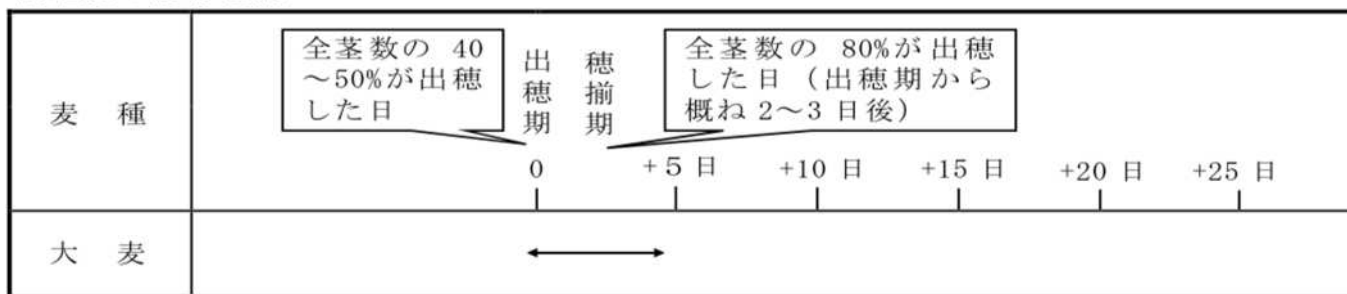
- 4月以降、気温の上昇に伴い病斑の進展が懸念されるため、各圃場の発生状況に注意が必要である。
- 本病が多発すると登熟に影響し減収・品質低下の原因となるため、上位葉で病斑の進展が確認される場合は、出穂期～穂揃期の防除適期に防除を実施する。



写真1.オオムギ網斑病

※ただし、早い時期から発生株が散見され、病斑が上位葉に進展している場合は直ちに防除を行うとともに、出穂期～穂揃期にも防除を実施する。

網斑病の防除適期



注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。

注2) 矢印は防除適期を示し、薬剤については次表を参照とする。

注3) 出穂期より早い時期から発生株が散見され、病斑が上位葉に進展している場合は、この時期にも防除を実施する。

○表3. チルト乳剤25使用方法

農薬名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量 (/10a)	使用時期	総使用回数	使用方法
チルト乳剤 25	網斑病	1000 倍	60～150L	収穫 21 日 前まで	1 回	散布
		8 倍	0.8L			無人航空機 による散布

※ チルト乳剤は1回しか使用できないので注意する。

(2) コムギ黄斑病

- ・降雨などの多湿条件と10℃以上の気温条件が、一次伝染および二次伝染を助長する。
- ・前作が大豆の圃場では、水稻の圃場より顕著に発生が多くなる傾向にある。また、発病には品種間差異があり、シロガネコムギは耐病性があるが、チクゴイズミ、ミナミノカオリ、はる風ふわり、さちかおりで発病が確認される。
- ・本病が上位葉まで進展すると、収量・品質に影響を及ぼす恐れがあるため、出穂期までに薬剤防除を徹底する。
(登録薬剤：チルト乳剤、ワークアップフロアブルなど)



写真2.コムギ黄斑病

(3) 赤かび病

過去に他県にて、小麦のカビ毒(DON)の基準値(1.0mg/kg)を超過するものが流通し、商品回収が行われる事故が発生しています(および玄麦の廃棄)。カビ毒に汚染された麦を流通させると、消費者・実需者の信頼を失い、国産麦全体の消費の減少に繋がりがねないため、確実に赤かび病防除を実施する。

- ◎特にパン用小麦(はる風ふわり・ミナミノカオリ・さちかおり)、
大麦(はるか二条・しらゆり二条)については2回防除を徹底する。
- ・出穂期は、播種時期や圃場条件、今後の気象等によって異なるため、必ず圃場ごとの生育状況を確認したうえで、適期防除に努める。



- ・感染適期は開花期～乳熟期で、高温多雨(20～27℃)で経過すると激発する。

・防除は、下表を参考に必ず圃場の生育状況を確認したうえで、適期防除に努める。

麦種	予想される赤かび病の発生量	全茎数の40～50%が出穂した日						
		0	+5日	+10日	+15日	+20日	+25日	+30日
小麦	少～並発生 並～多発生	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全茎数の80%が出穂した日(出穂期から概ね2～3日後)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 出穂期 穂揃期 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">開花始め～開花期</div> <div style="width: 100px; border-bottom: 1px solid black; position: relative;"> <div style="position: absolute; left: 0; top: -5px;">←</div> <div style="position: absolute; right: 0; top: -5px;">→</div> </div> </div>						
大麦	少～並発生 並～多発生	<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">薬殻抽出期</div> <div style="width: 100px; border-bottom: 1px solid black; position: relative;"> <div style="position: absolute; left: 0; top: -5px;">←</div> <div style="position: absolute; right: 0; top: -5px;">→</div> </div> </div>						

注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。
 注2) 小麦の開花期とは40～50%の穂が開花した日。
 注3) 大麦の薬殻抽出期とは、50%以上の穂で薬殻が見え始めた日。
 注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法(収穫前日数)に特に注意する。

① 小麦の防除時期

- ・1回目の防除時期：開花最盛期(出穂期の約7～10日後)
- ・多発生が予測される場合は2回実施(1回目の10～20日後)

「パン用小麦」は、必ず2回防除を徹底する。



写真3.小麦開花期

②大麦の防除時期

- ・1回目の防除時期：薬殻抽出始め(出穂期の約2週間後)
- ・多発生が予測される場合は2回実施(1回目の7日後)

「はるか二条」は、必ず2回防除を徹底する。

大麦の芒(のげ)の下から黒い**薬殻**が出る時期に防除

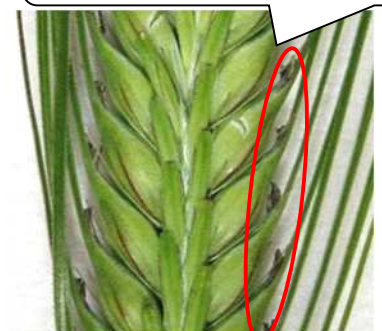


写真4. 大麦薬殻抽出期

※大麦でトップジンM水和剤を使用する場合は、収穫30日前までの使用となっているので注意する。



写真5 R8年産シロガネコムギ情報田の状況

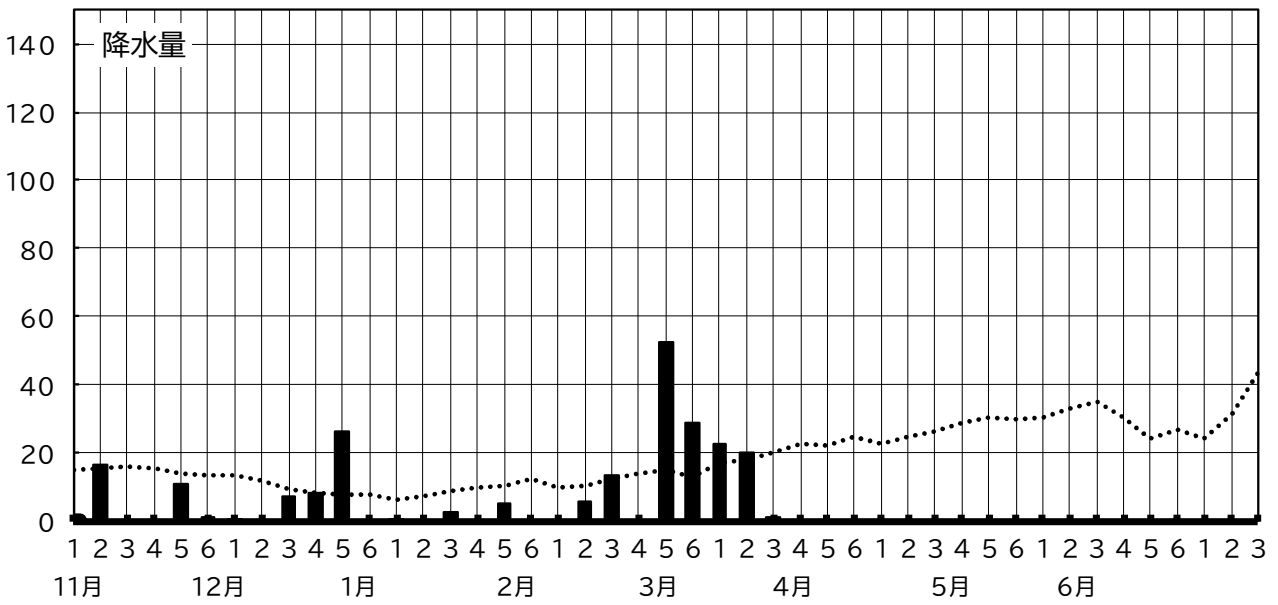
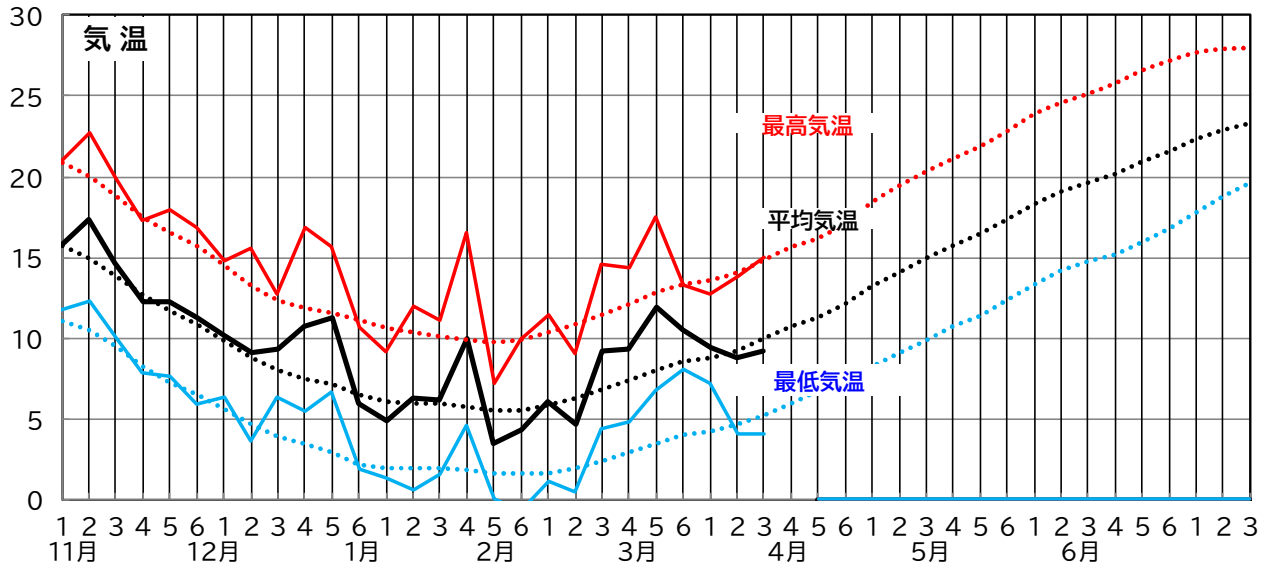


写真6 R8年産さちかわり情報田の状況

令和8年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値(佐賀)

佐城農業振興センター



※グラフ中の点線は平年値